

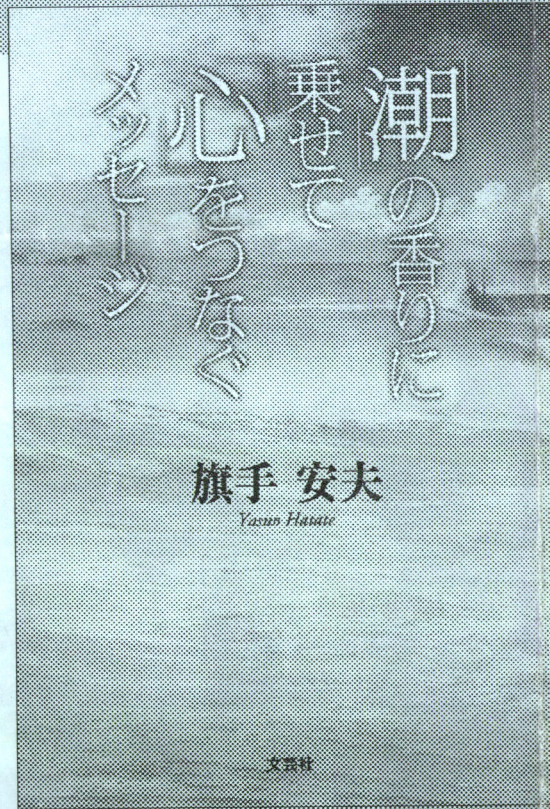
図 書 の ご 案 内

このたび当会所属の組合員であります（株）広島 SHIPPING・社長 はたてやすお 旗手安夫氏（広島県内航海運組合広島支部所属）が、管理船舶の乗組員に対して日々無事な航海を祈り安全の尊さを訴え続けた通信文を取りまとめた書籍（題名：潮の香りにのせて心をつなぐメッセージ）を出版されましたのでお知らせいたします。

平成 24 年 2 月 7 日
全国海運組合連合会

「潮」の香りに乗せて 「心」をつなぐメッセージ

Yasuo Harate 旗手 安夫



「海の危険を予測せよ」「安全航海の遵守なくして明日はない」……

日々、海で働く多くの乗組員の 無事な航海を祈り 安全の尊さを訴えつづけるFAX通信

「私を守るために失った母の命を、私は二倍の命として生きなければ、
母に申し訳あるまい。

誰でもが多くの人に助けられ見守られて、いまにある。

そのいまを一生懸命生きることこそ、ほんとうの使命だと思う」

(第三章 秋「二倍の命」より)

四六判・並製・224頁 定価1,365円(税込み)

文芸社 東京都新宿区新宿1-10-1 ■ ご注文は本チラシをお近くの書店にお持ちいただくか、またはクロネコヤマトのブックサービス (0120-29-9625、TEL.03-5369-2299 FAX.03-5369-3066) 携帯電話からは03-6739-0711)への電話注文、セブンネットショッピング (www.7netshopping.jp) にお申込み下さい。

注文書

書店印

注文 冊

新刊

文芸社

旗手 安夫・著

「潮」の香りに乗せて
「心」をつなぐメッセージ

ISBN978-4-286-11277-0 C0095 ¥1300E

定価 1,365円

(本体1,300円+税5%)

「潮」の香りに乗せて 「心」をつなぐメッセージ
「この本を書き上げるに至った私の思い」

平成 24 年 1 月 26 日
広島市南区宇品海岸一丁目一の九
株式会社 広島 SHIPPING
旗手安夫

私は今、海運の道に入って 50 年の節目を迎えました。

20 年間の船長職を経て、陸上勤務を拝命後は労務管理と安全管理を預かり、現在は船舶管理会社を経営する者として、海の道を一貫して歩き続けてまいりました。

海運事業を営むものとしまして、最も重要な条件は物流貨物の安定した流通であろうと思います。安定した流通を阻むものは、経済だけの問題ではありません。

乗組員の磨かれた技術による、安全運航との二輪によって安定した物流が確実に達成できるものだと思います。

私達の携わる船舶管理業は荷主様の大切な積荷・船主殿の財産である船舶・多くの乗組員の生命を預かって運航するものです。

運航には完璧な連携と技術を駆使しなければ、未曾有の力を持つ自然界を安全に乗越える事は出来ません。しかし、今昔、時代は変わっても海難事故による船舶の遭難や、積載貨物の損傷、職場の労働災害は一向に減少する気配が無いのも、関係する皆様には大きな憂いとなったままです。

この大きな難題は海運に関係される多くの方々の悲願であり、更に留守を預かる家族にとりましても、安全遵守は生命線にも値するものです。

海難事故や労働災害は人の運命を変えてしまうほどの決定力を持っています。

過ちであれ不注意であれそのために残った傷は、企業には存続の是非、乗組員には一生を背負う大きな不幸です。

私の長い年月の体験に学んだ教訓は「海難事故や労働災害は、総じて人の不注意や油断から起きる、心の持ち方に大きな原因があることに気がつきます。」その心に呼びかける言葉や考え方を伝える事が、とても大切な部分であると気づいたと思います。

この本に表現されている頻度の高い言葉を抽出してみますと、次のような言葉を沢山使っています。

「ありがとう 感謝 愛 家族 幸せ 不幸 優しさ 辛さ 生きる 生かされる 生き方 安全 安心 無事故 無災害 健康 平穩 安らぎ 和 連帯 絆 協力 力を合わせる 助け合い 支え合い 油断 すき間 失敗 マンネリ しけ 風雨 濃霧 逆境と 順境 運 不運 学ぶ 修業 努力 心 心のあり方 心の持ち方 思いやり」

命の尊さを様々な角度から訴えると共に、人の間違っただけの心の持ちようが引き起こす事故の悲惨さを訴え続けています。

心構えのシッカリしている人には、災害は無縁です。そんな心のありように着目して一人でも多くの人気づきによる、海難撲滅を悲願として書き溜めたものです。

多くの海難事故は、心構えが正しい方向に向かえばその殆どを防ぐ事ができると確信します。更に人として様々な心の「さ迷い」が発生する事も、生きていくうえでは致し方のないことだと思えます。それらの条件の上に立って、私がひたすらに貫くことができる事があるとしたら、日常身近に感じる心構えを休み無く訴え続ける「継続の力」が必要なのだと確信しました。

私が携わった年月、苦しみ迷いながら書き溜めた心構えは、土日を除く毎日、送り続けた願いの通信を、そのまま没する事は出来ないと思えました。

10年以上の通信は原稿用紙にすれば1万枚程度の枚数になると思えます。

弊社の乗組員のみならず、船舶の衝突には相手が存在するものです。

できるだけ多くの方々にこの心を伝えて、この世の中に一つでも不幸な事故を防げることを悲願として、一冊の本にまとめることにしたいです。

勿論私は物書きでも小説家でもありません・・・文書の構成は誉められるような内容では無いと感じています。

願いは一つ・・・海に働く多くの人々・その職場に海難事故と労働災害がなくなりますこと。

狙いは一つ・・・海難事故の多くは、人の心が起こす。

方向は一つ・・・継続は必ず人の心をうつ・・・力なり。

この三点に絞り、私の体験を通して訴え続ける人生読本としました。

関係各位様と多くの乗組員の皆さんに読んでいただき、少しでも海難撲滅に寄与できることが、私のひたすらの願いなのです。